

=====

東海生研 ～ メールマガジン 第160号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

=====

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
 - ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 総会及び第1回セミナー (予告)
 - ☆ 第2回セミナー (予告)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆ 中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 見学会 (4月19日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆ 農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆ 平成30年度宇宙航空科学技術推進委託費 (文部科学省)
 - ☆ 平成30年度 A-STEP 機能検証フェーズ：試験研究タイプ (第1回) (JST)
 - ☆ 平成30年度 A-STEP 産学共同フェーズ：シーズ育成タイプ (JST)
 - ☆ 平成30年度 A-STEP 企業主導フェーズ：NexTEP - B タイプ (JST)
 - ☆ 民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 総会及び第1回セミナー (予告)

【開催日時】 平成30年6月14日 (木) 14時30分～16時45分

【開催場所】 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター) 903会議室

【内容】 総会 14時30分～15時30分

第1回セミナー 15時45分～16時45分

講演：「ゲノム編集による作物育種」～現状・問題点・これから～

講師：名古屋大学大学院生命農学研究科准教授 白武勝裕 氏

【参加】 無料、事前申し込み

【情報交流会】 参加費有り (事前申し込み) 903会議室にて17時～18時30分

☆ 第2回セミナー (予告)

【開催日時】 平成30年9月4日 (火) 13時30分～16時40分

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター） 1208 & 1209 会議室

【講演】 作物、食品、畜産、水産、林産の各部会に関わる研究成果&実証の講演
（内容は後日、ご案内します）

【技術相談会】 競争的資金応募等の関する相談会（事前申し込み）

【参加】 無料、事前申し込み

【情報交流会】 参加費有り、事前申し込み、1209 会議室で17時から18時30分

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 ～豊橋市バイオガス発電見学会～

【見学先】 豊橋市上下水道局：

中島処理場・豊橋市バイオマス資源利活用施設整備・運営事業

【開催日時】 平成30年4月19日（木）14：00～16：30

【集合場所】 JR 東海道本線豊橋駅改札出口 13時 40分に出発

（アクセス：改札集合後、東口1階タクシー乗場から～約20分）

【講演】 14：00～15：00

「小規模普及型バイオガス発電システムの開発と今後の展開」

豊橋技術科学大学 環境・生命工学系 特任准教授 熱田 洋一 氏

【見学】 15：10～16：30

[1]バイオマス利活用センター [2]中島処理場水処理

【参加】 定員30名 会員優先。 申込締切 4月12日（木）

定員があれば会員外も募集

参加費 無料

但し、豊橋駅からの交通費（タクシー往復など）は、各自折半で負担。

【懇親会】 17：20 三三九（札木／居酒屋）予定。 参加費 3,000円（予定）

（愛知県豊橋市呉服町 75 番地 電話：0532-53-0339）

定員 とりあえず20名

4月12日（木）以降の懇親会追加、キャンセルはできません。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、
下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下

記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成30年度競争的研究資金等について

☆平成30年度宇宙航空科学技術推進委託費

(文部科学省)

http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1401208.htm

分野等：宇宙利用技術創出プログラム（衛星から得られたデータ等の宇宙科学技術を活用し、異分野シーズとの融合による新たな宇宙利用技術に関する研究開発を行うことにより、環境、農業・漁業、防災、スポーツ、地理空間等の様々な分野における実用化につながる、新たな価値を提供する技術の創出を目指す）等。

公募期間：平成30年2月16日～4月16日

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）：

平成30年度 機能検証フェーズ：試験研究タイプ（第1回）

(JST)

【概要説明】 <https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

【支援対象】 大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するかどうか確認するための試験研究を支援

【採択予定件数】 70課題程度

【応募申請者】 大学等の研究者

【研究開発期間】 原則1年

【研究開発費】 ～300万円、グラント方式

【公募要領】 https://www.jst.go.jp/mp/file/h30kinou_koubo.pdf

【公募期間】 平成30年3月15日～平成30年5月15日正午

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）：

平成30年度 産学共同フェーズ：シーズ育成タイプ

(JST)

【支援対象】 企業の視点で大学等の研究成果に基づく技術シーズの可能性検証及び実用性検証を行い、中核技術の構築を目指す産学協同の研究開発を支援

【採択予定件数】 20課題程度

【応募申請者】 開発実施企業と大学等の研究者

【研究開発期間】 2～6年

【研究開発費】 2,000万円～5億円、マッチングファンド方式

【公募要領】 http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-seeds/h30-a-step-seeds_kouboyouryou_02.pdf

【公募期間】 平成30年3月15日～平成30年5月15日正午

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）：

【支援対象】 研究開発型企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援

【採択予定件数】 若干数

【応募申請者】 シーズの発明者・所有者の了承を得た開発実施企業

【研究開発期間】 最長5年

【研究開発費】 ～3億円、マッチングファンド方式、実施料納付

【公募要領】 http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-nextep-b/h30-a-step-nextep-b_kouboyouryou_01.pdf

【公募期間】 平成30年3月15日～平成30年6月8日正午

.....
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆5◆ 新技術情報について

☆水稲関係

○餅（もち）の柔らかさが持続する水稲新品種（愛知126号）の開発

本品種は、糯米（もちごめ）のデンプンを構成するアミロペクチンの枝が従来品種よりも短く、この品種で造った餅は、柔らかい餅加工品で使用されている「ヒヨクモチ」等と比べて、柔らかさが持続します。また、いもち病や稲縞葉枯れ病に極めて強く、従来品種と収穫期、収量、玄米外観品質が同等です。このような特性を有する本品種は、加工業者にとって魅力的であり、地域特産品を生産することにより生産者にも利益をもたらすものと思われます。農研機構との共同開発により、既に品種出願を終え、2019年からは生産者が一般栽培を開始する予定です。

・愛知県農業総合試験場 HP(プレスリリース)：

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/nogyo-keiei/aichimochi126gou.html>

☆獣害対策関係

○ICTを活用した檻（おり）、罠（わな）の遠隔監視・操作システム「クラウドまるみえホカクン」の開発

シカ、サル等が多数生息する地域が拡大し、農作物被害や家屋への侵入などの被害が出ています。三重県農業研究所、鳥羽商船高等専門学校、株式会社アイエスイーは、クラウド上で檻内とその周辺の画像情報を複数の監視員が共有し、スマホ等で同時に多数の檻を遠隔監視し、捕獲操作が可能な技術を開発しました。これにより、檻周辺に出現した獣が大型檻に入り込んだ時に一網打尽に捕獲して、いわゆる「スレ個体」（学習して檻に入らない個体）を生じにくくする多頭捕獲を実現しました。本システムでは、檻に動物が侵入す

るとメールで通知され、クラウド上に動画等が保存され、チャットにより監視員が情報交換しながら遠隔で捕獲操作をすることが可能です。大型檻と本システムを組み合わせ、適正に運用することにより、シカ、サル の地域個体数を効率的に管理できる可能性が生まれました。

- ・農林水産省 HP : ICT を活用した檻・罠の遠隔監視・操作システム「クラウドまるみえホカケン」

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/attach/pdf/2017-4.pdf

- ・農林水産省 HP : 地域を守る！先端技術と地域の力を合わせた鳥獣害対策（兵庫県立大学 山端直人氏 作成）

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/committee/symposium/No.06.pdf>

.....
編集後記

4月に入り、新年度がスタートしました。昨年度の成果と反省を踏まえつつ、新たな気持ちで、産学官連携による研究開発と事業化の促進、セミナー等を通じた研究成果の普及、研究成果に関心を有するユーザーと研究者とのマッチング促進等に努めて参りますので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ところで、最近読んだ本に、保母武彦著「日本の農山村をどう再生するか」（岩波現代文庫、2013年10月発行）があります。著者は、名古屋大学経済学部を卒業し、島根大学教授として、地方財政論・地域経済論などを研究し、農山村（中山間地域）が蘇るためには、どうしたら良いのかを問い続けてきました。

本書の前半では、戦後の農林業・農村政策を概説しており、それらの政策の問題点を指摘しています。後半では、各地の地域活性化の先進的な事例を紹介しながら、「内発的な地域づくり」の重要性を繰り返し述べています。この内発的発展論においては、単発の事業ではなく、しっかりとしたランドデザインを作り、明確な地域発展の総合戦略の中に個々の事業を位置づけることが大切であること、また、新潟県塩沢町石内区のように、スキー場の開設と拡充により、地元の多くの農家が民宿を経営して出稼ぎをしなくて済むようになり、石内地区に進出する外部企業には協力分担金を支払ってもらい、この資金をスキー場の改善や地域活性化事業に活かすなど、プラスのスパイラルを作出して地域を発展させた事例を報告しています。

中山間地域においては、人口減少、少子高齢化が急速に進む中で、内発的発展論を実践していくことが難しくなっている状況にあります。このような時期にこそ、本書の内発的発展論の考え方を良く咀嚼して、地域社会の持続性、安定化を図っていくために、様々な人材を結集して地域活性化を進めていく必要があるかと思えます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>